

# 第14期 まちづくり大学 Bコース講義

## ごみ処理場見学

平成30年10月19日(金)13時~17時05分

### 施設案内

大阪狭山市市民生活部生活環境グループ 松本課長補佐

市民活動支援センター

橋本、植山、伊勢田、早野、

出席者 8名(M6、F2)

欠席者 5名

まちづくり大学Bコースは、ごみ処理場の見学を行った。資源リサイクルセンターと南河内環境事業組合第一清掃工場の2か所の施設です。

## 1. 資源リサイクルセンター

大阪府南河内郡河南町大字山城165

講師 藤野興業(株)

藤崎さん



ごみ減量を達成するため、廃棄物の発生・排出抑制「リデュース」、使用済みの製品の再利用「リユース」、回収したものを原材料として使用する「リサイクル」の3Rを実行しており、その資源リサイクルの一翼を担っているのが、この資源リサイクルセンターです。

南河内6市町村から収集されたカン、ビン、ペットボトル、プラスチック類の資源ごみを、選別・分別・破碎・圧縮等の中間処理をして、リサイクル業者や容器リサイクル法指定法人に売却している。

### ① カン・ビン

ビンは、分別し無色・茶色ビンはビン製造業者に売却、その他の色は以前廃棄物としていたものを、破碎プラントで砕いて粒状にし、鋭利な角はすべて磨かれて安心した製品にして、滑り止め舗装用骨材・道路舗装・グレーチング・サンドアート・砂絵・陶芸の材料等に使用している。

カンは、アルミ・スチールに分別し、圧縮して金属業者に売却している。



ビン色分別処理場



カン選別機

### ② ペットボトル

人力でキャップ・ラベルを除去したのち、圧縮して容器リサイクル法指定法人である再生業者に売却。衣類、作業着、

カーペット等の繊維に再生。また、事務用品、パレット、側溝、ペレットとして製鉄の燃料等に再生している。



ペットボトル選別



その他プラスチック



ガラス(クリスタルストーン・サンド)

### ③その他プラスチック類

異物除去後に、圧縮して再生プラスチックとして再利用されている。

現在のところ、大阪狭山市では分別回収を実施していないが、プラ類のごみに占める割合が大変多く、今後分別回収に移行することを検討中。

リサイクルは、収集、選別等に市から多額の費用を支払っている。そのため、今後はリサイクルではなく、むしろ大量発生への抑制に取り組む必要があります。

リサイクルの要点は、確実に分別を行い、きれいに洗うことです。

## 2. 第一清掃工場

富田林市大字甘南備 2345

講師 南河内環境事業組合

理事(会計管理者)

石橋 成元さん



南河内7市町村で、燃えるごみ、粗大ごみを焼却する目的で、「南河内環境事業組合」がS42年に設立され、S45年に第一工場(老朽化してS60年に建て替え)、H12年に第二工場が建設された。

(H22年に旧美原町脱退し、6市町村で運営)

第1工場は、大阪狭山市、富田林市、河南町、太子町、千早赤阪村の5市町村312,000人のごみを受け入れており、週2回の燃えるごみ、月2回の粗大ごみを焼却処理している。

第2工場は河内長野市のごみを処理している。

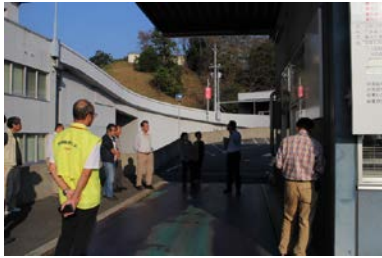
第1工場の焼却能力は150トン/24時間×2炉、破砕機は50トン/5時間×1基 日立造船製

H29年度処理実績 54,772トン/年

処理費用 17,000円/トン 一人あたり負担額 4,600円

人員構成 総数103名 その内、運転他を業務委託し63名が対応している。

早くから、すべての市町村で、シール制度を導入し、ごみ減量にも協力している。



計量機室



台風ごみでピット満杯



クレーン操作室焼却炉へごみ投入

## 工場の特長

### ①環境保全対策

- 排出ガス対策 →電気集塵器、有毒ガス除去装置、空気ガス混合器を使用
- 排水対策 →処理後、場内で再利用
- 防臭・防音対策→ダイオキシン対策で高温 900℃焼却、完全焼却による防臭対策、騒音対策

### ②焼却炉の余熱利用で場内の給湯・暖房・発電(980KW、場内使用電力の75%を供給)

### ③有毒ガスから工業塩を生産



中央制御室



工業塩



小学生見学感想文

## ごみ焼却工程で困った問題点

- ① ガス抜きしていないガスボンベ、スプレー缶は作業上爆発の危険があり、設備故障の原因になる。
- ② ごみに混入した金属類は、焼却炉内で固化、設備のトラブルのもとになる。
- ③ 今年度台風 21 号の関係で、大幅に受け入れごみが増加している。

## 焼却コストとごみ減量による経費削減

持ち込まれたごみは、入り口で重量を計算され、各市町村単位の年間総重量比で各市町村の年間負担額が決まります。

大阪狭山市のH29年度負担金は、315,922千円(5,629円/人)。前年に比べて減額しており、市民の皆様のご協力のお陰で、南河内6市町村の中で、一日一人当たりのごみ排出量が、長年ワースト1であったのが、昨年は3番となった。

ごみの排出量で負担金は増減します。今後もっと市民一人ひとりがごみ減量に取り組み、ごみ処理費用を減額し、近年大幅に増額している子育て・福祉などの費用に充当するべきである。

以 上